

令和5年度児童教育振興財団助成事業「地域の色・自分の色」研究会

「いつでも・どこでも・だれでもワークショップ」を活用したふたばこども園の実践

## 「どろのくれよん」

実践：ふたばこども園（令和6年1月9日～1月13日に実践）

まず初めに、1月9日の日中の遊びの中に、「血の池地獄の泥クレヨン・チョーク」「ガラソ岳のクレヨン・チョーク」「畑の土のクレヨン」「鬼岩坊主地獄の泥のクレヨン・チョーク」を子どもたちが遊びに使えるようにコーナーとして環境を作った。

子どもたちは、様々なクレヨンを見たり、クレヨンを並べて色の違いを比べたりしていた。また、5歳児がクレヨンで遊んでいる様子を見た2歳児、3歳児の子どももそばにやってきて「わたしもやってみたい！」と言い、遊びに参加していた。※写真1.2.3.4



写真1：くれよんのご対面



写真2：クレヨンを使ってみる



写真3：クレヨンを使ってみる



写真4：クレヨンをわたしもやってみたい！

1月10日の午後、5歳児を部屋に集め、全員一斉にクレヨンに触れ、絵や文字を書いてみる活動を行った。

導入として、昨年度の血の池地獄の泥を使った染物を経験しているため、保育者が、覚えているかを尋ねた。

子どもたちは、「ハンカチを染めた！」「ちょっと赤色の泥やった！」「匂いが鉄棒の匂いのやつ？」などその時のことを思い出しながら口々に話す子もいた。中には「あ～あれか～！」と話を聞いて泥染めをした事を思い出す子もいた。



写真5：クレヨン活動の様子

それから、保育者が「実はこんなものを借りたんだけど」と言いながらクレヨンとチョークを出すと、「何それ〜！」という子や「昨日それで絵を描いたよ〜！」と教えてくれた。

遊んで行く中で、各々クレヨンの描いた時の感触や特徴を感じ取り、「ガラン岳のクレヨンはカチカチ・ベトベトで色がついたから描きやすい！」や「土のクレヨンはザラザラで描きにくい。でも黒色が綺麗」「坊主地獄のクレヨンはツルツルだけど色が灰色で見にくい」「地獄のクレヨンはプニプニで色も良くうつる！」など、子どもたちは全身の感覚を使ってクレヨンを分析していた。※写真5(全体の様子)6.7.8



写真6：クレヨンの感触をオノマトペを使って話している



写真7：描き心地やクレヨンの濃さなどを試す



写真8：クレヨンを使って絵を描く

そして、子どもたちの中から、「地獄のクレヨンなら匂いは鉄棒の匂いなの？」という言葉が聞こえてきたので、保育者が「血の池地獄のクレヨンの匂いは泥の時と一緒に？」と問いかけると、持っていたクレヨンを鼻に近づけていた。※写真9.10



写真9：クレヨンを匂ってみる



写真10：クレヨンを匂って自分の記憶の中にある匂いと繋げる

「せんせ〜！なんか粘土の匂いがする！」や「酸っぱい時の匂いがする」「土の匂い！」「血の匂い！」「ピーナッツみたいな感じがする…」「コンクリートもこんな匂いだったよ！」「野菜ジュースにも似てる！」「草の匂いもする気がする…」など沢山の言葉が聞こえてきた。※写真11



写真11：嗅いだことのある匂いを思い出してお友だちに伝える

保育者が丸や四角などのカップやガムテープの芯等を用意していたので、絵を描いている途中で「こんなのも使ってかけそうじゃない？」と声をかけると「やってみたい！」とカップ等をなぞり、「綺麗な丸が描けた！！」と笑いながら嬉しそうに教えてくれた。※写真 12-1, 2



写真 12-1：ガムテープの芯を使って絵を描く



写真 12-2：ガムテープの芯の形にそって色をつける（5歳児）

作品を描いた後は、みんなで作品を飾れる場所に飾り、お互いに描いた作品を見比べて「〇〇ちゃんは血の池地獄のクレヨンも使ったんだね！」や「私は丸を描いた！」などを話していた。※写真 13



写真 13：描いた作品を飾る場

後日、保育者が泥のクレヨンを環境に用意していると、「私もやる～」と子どもたちが集まりました。そして、子どもが園庭から竹の葉や桜の葉を拾ってくると「落ちている葉っぱだけ拾ってきたよ」と言いながら拾ってきた葉でフロッタージュを作品に取り入れていました。※写真 14-1, 2



写真 14-1：フロッタージュを取り入れた



写真 14-2：フロッタージュを取り入れた

また、保育者が「色と名前がわかったら他のお友だちも絵を描きやすくなるかな～」と子どもに問いかけると「そうだよね～他のお友だちもわかりやすいかも～」と女の子が言うと、隣の女の子も「じゃあ描いてみようよ！」と言いながらクレヨンと紙を用意し、保育者にクレヨンの名前を教えてもらいながら、紙にクレヨンで横線を描き、油性ペンで隣にクレヨンの名前を描いて楽しんでた。※写真 15-1

しかし、途中でクレヨンの名前を間違ってしまう、3人とも「ああ、「け」を反対に描いてしまった。」と悔しがっていたが「やっぱり、ちゃんと描きたい！」という女の子の一言から、再びチャレンジしていた。※写真 15-2



写真 15-1：クレヨンで線を書いて隣にクレヨンの名前を書く



写真 15-2：再びチャレンジ

その後、面白そうにしていた5歳児の様子を見ていた3歳児の子どもも、泥クレヨンに興味を持っていたので、保育者が紙を渡すと「ありがとう」と言いながら絵を描き始めた。※写真16-1

3歳児の子どもが集中して描いていると、先程クレヨンの線と名前を描いていた女の子や4歳児の女の子も描いている様子を見にきていた。※写真16-2



写真16-1：どろのクレヨンに興味をもった  
3歳児の作品



写真16-2：3歳児の子どもが絵を描いているところをじっと見る4歳児

また、再び絵を描き始めた5歳児の子どもは、先日カップを使いながら絵を描いていたお友だちのことを思い出したようで、素材の入っている箱から丸や四角のカップを用意するとカップがずれないように左手でカップを押さえながら模様を描いていた。※写真17-1

絵を描いている途中で、丸や四角が重なり合う時の模様が気に入り「私この絵が好きかも」と一人で呟きながら描いていました。また「この色はこれがいいな～」と思っていたのか、自分なりに塗りたい色を選びながら工夫をしている姿も見られた。※写真17-2, 3



写真17-1：丸や四角のカップを使って模様を描く



写真17-2：クレヨンで模様  
色を塗る



写真17-3：クレヨンで模様  
に色を塗ってできあがり  
(5歳児)

(写真・エピソード：芦田主幹)